

12月25日 校長講話

令和6年があと6日で終わりを迎える、今年最後の登校日となる本日、私の話をもって、1年のまとめとなればとお話させていただきます。

1月1日の能登半島を襲った地震、航空機火災事故のニュースに始まった令和6年は、そのあとも石川県には豪雨災害などももたらし、傷がいえぬ間にさらに上塗りをされていくような、心が痛い年にもなりました。そんな中でも、若い皆さんの力で世の中を新しい感覚で切り拓いていくたのしい出来事もたくさんありました。本校でも、学習・生徒会・部活動で活躍する姿や、探究活動や個人の「好き」とことん追求する姿もたくさん見られたことが私にとっても非常に嬉しい年となりました。先日は1,2年生3名が課外活動で取り組んだ探究学習の成果として第3回只見線全国高校生サミットにおいて第2位となる優秀賞を受賞し福島県知事より表彰されました。以前にも報告しましたように皆さんが個人個人の「好き」を追究している見事な姿に日々大きな感動とエネルギーをもらっています。今後も皆さんが人に言われて動くのではなく自分が世の中を動かす勢いでさまざまに追究していく姿を応援していきたいと思っています。

さて、先日図書館の先生にすすめられて読んだ本の中で考えさせられるものがありました。「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」という本です。内容から私が導き出したタイトルの答えは「働いていて時間がないと、結論をすぐ求めてしまう。だから答えがそこにあるスマホにすぐ手を出してしまう」ということです。確かに、スマホには世界の情報が、自分で見たことがなくても聞いたことがなくても、いろいろ考えなくても検索すれば答えがそこにあり、疲れて時間がない現代人にはもってこいのツールです。そこへいくと本を読むということは、「自分から遠くはなれた文脈に触れる行為」であり、数十ページに及ぶ分厚い語録と情報から自分で考えて推察して世界を広げて創造して、つなげて・・・という、とてつもない時間と思考とエネルギーが必要な行為なのかもしれません。この本には「読書は人生のノイズなのか？」と問があり、これについても私なりに分析してみたところです。ノイズとは電流や電圧が急激に変化するところに発生し、対人関係・人間関係においてはコミュニケーションを妨害するという意味でも使われ、コミュニケーション行動のいたるところにノイズは発生するものとなっています。相手に気持ちを伝えるときも受け取るときも、その感情を符号化したり解釈していく行為の中にも常にノイズは発生しており、自己理解と他者理解を深めることでのみ、このノイズは軽減されていきます。つまり、「自分にとって不必要だ」と思う情報はすべてノイズとなるということにもなります。よく考えて見ると、本来わがままである人間にとって自分には関係ないとノイズを全て切り捨てていった場合、世の中や人間社会はどうなってしまうのか。音楽でいうところの、不協和音も「ノイズ」と変換される場合がありますが、その音楽に不協和音が存在することにこそ、作曲者の息遣いや生きた証が感じられ美しいメロディーラインに形作られていくことを、音楽経験者であれば納得できることもあろうかと推察します。戻りますと、「読書は人生のノイズ

なのか？」という問いの私の答えは「ノー」です。ノイズを排除するのではなく、上手に受け入れ楽しみ取り込みながら生きていくことに意味を感じている人間として、読書という行為も含め、皆さんにも「答えがすぐにでないことを回り道をして楽しむ」ということでも、人生を豊かに過ごしてほしいと願うところです。

さて、3年生はいよいよ皆さんの夢の実現に向けての本番の冬となります。体調管理をしっかりし、成果が十分発揮できるよう、心から願っています。1, 2年生の皆さんも、令和6年度の残りの3か月をどう過ごすか、ここまでの振り返りをしながら、年末を過ごしてください。来年は巳年です。蛇は古来から「再生」とか「永遠」の象徴と言われ、皮を脱ぎ捨てあたらしい姿に生まれ変わるとして、新しい挑戦や変化にも前向きな姿勢を示す年でもあります。2025年の巳年は60年周期の干支では、「努力を重ね物事を安定させていく年」という意味を持つ年になるようです。世相的には苦しかった本年を越えて、皆さんにとっても新たな挑戦になる年になることを祈念します。

それでは、ご家族皆様が穏やかに年末年始を過ごせますよう、お祈りしております。1月にまた元気にお会いしましょう。